

10月2日（月）その77 初心忘るべからず－世阿弥－

47期生の研究員の皆様、ようこそ！島尻教育研究所へ!!皆さん方にとって昨日までの世界と今日からの世界は、別世界のように思えるかもしれません。聞き慣れた子ども達の喧噪やせき立てるようなチャイムの音、そういうものは一切聞こえません。島尻教育研究所は、話には聞いていたけど、少し未知の世界へ足を踏み入れたような緊張感があるかも知れませんね。

この前の「入所説明会資料」の中に書いてあったでしょう。「教育公務員は、任命権者の定めるところにより、現職のままで、長期にわたる研修を受けることができる。」（教育公務員特例法第22条3）皆さんはまさにその権利を享受しているのです。

「初心忘るべからず」という言葉を知っていますよね。現在では、「未熟だけど、始めた頃のまっすぐな気持ちを忘れてはならない」という意味で使われていますが、実は最初の頃はそういう意味ではありませんでした。

この言葉を初めて使ったのは、室町時代の能の大家「世阿弥」（ぜあみ）です。世阿弥は、「花鏡」（かきょう）という芸の極め方を綴った本の中で、「初心」という言葉を使っています。

「初心」とは、初めての試練に立ち向かい、その試練を乗り越えていく心構えという意味でした。そして試練は何度も襲ってくるものだ……。

だから「初心忘るべからず」とは、何度も襲ってくる試練に立ち向かい乗り越えていく心構えを忘れてはいけないという意味でした。

中堅教員には、初任者の時とは違う中堅教員としての試練があります。仕事を続けていく限り、そのステージ、ステージによって新たな試練が押し寄せてくるのです。だから試練から逃れることはできません。その時々々の試練に立ち向かい、乗り越えていく心構えを忘れてはいけません。

もちろん私も指導主事としての試練、教頭としての試練、校長としての試練、義務教育課長としての試練などを、乗り越えてきました。結果論だが、大過なく勤め上げたのだから、ちょい自慢なのですよ！（笑）

渡辺和子さん（1927－2016）の「置かれた場所で咲きなさい」という200万部のベストセラー本がありますね。上智大学、ボストンカレッジ大学院を卒業し、岡山のキリスト教系のノートルダム清心女学院の学長を36才のときから勤めた方で、マザーテレサが日本に来たとき通訳も勤めました。

彼女は若くして学長に就任しましたが、多くの試練が待ち受けていました。

そんなとき一人の宣教師から短い英語の詩を手渡されたそうです。

「Bloom where God has planted you.」（置かれた場所で咲きなさい。）。そして続けて「咲くということは、仕方がないと諦めることではありません。それは自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすることによって、神があなたをここにお植えになったのは間違いでなかったと、証明することなのです。」と書かれていたそうです。それを読んで、彼女は吹っ切れて、自分ができることを一生懸命頑張ることを決意したそうです。「境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる。」とも言っています。

仲宗根用英・元県教育長がいつも「落地生根」（らくちしょうこん）と言っていました。「置かれた場所で咲きなさい」と同じで、「なぜ、自分だけが……」と思わずに、配置されたその場所で一生懸命に頑張れ！ということ。

10月3日（火）その78 黒潮大蛇行とジョン万次郎

9月30日の新報には、「黒潮が12年ぶりに大蛇行」のニュースがあった。黒潮大蛇行が2004年以来12年ぶりに発生したという。日本列島に沿って流れている黒潮が、紀伊半島南端の潮岬付近から大きく南に曲がるのである。日本の漁業に大きな影響が出るのだと書いてあった。私はこの記事を読んで、ある人物を思いだしていた。

その前に皆さんは、「黒潮」を見たことがありますか？私はテレビで見たことがあるが、海水が川のように流れていて、上空から見ると黒潮の流れている部分は黒ずんでいて、明らかに色が違うのだ。フィリピンの東側で発生し、1万kmの旅をするという。ハワイの東からフィリピンに向けて吹く風に地球の自転が作用して、世界最大の海流が発生するらしい。与那国と台湾の間を北上し、久米島の西を通過、海底の地形の関係で屋久島の南側で太平洋にジェット噴射のように勢いよく流れ出しているとのこと。四国の足摺岬沖、紀伊半島の潮岬の沖を北上し、三陸沖で南下してきた「親潮」とぶつかり、そこに世界三大漁場の一つを作り上げている。カツオやマグロなど、原始時代から日本人は黒潮の恵みを受け続けてきた。

皆さんは、「ジョン万次郎」を知っているだろうか。元糸満市教育委員会の神谷良昌氏は、「ジョン万」研究の第一人者だ。彼の講演「琉球に上陸したジョン万次郎」を何度か聴いたことがある。

ジョン万次郎は1841年、14歳の時に仲間とともに漁に出て、嵐にあい漂流をして、土佐の遙か東、江戸の遙か南の無人島「鳥島」に漂着する。そこで143日も生きながらえて、アメリカの捕鯨船に仲間もともに救助される。日本は鎖国をしていたため入国できず、他の者はハワイで降ろされた。しかしジョン万次郎はホイットフィールド船長とともにアメリカに渡り、彼の養子となってアメリカの学校で教育を受ける。その後捕鯨船に乗り世界中を駆け巡り、琉球や日本の近くにもたびたび来た。のちに彼は帰国するための綿密な計画を立て、琉球に上陸した後、薩摩藩の取り調べを受け日本に戻る。その後江戸幕府に連行され、幕末の日米和親条約の締結に通訳として尽力した。その後通訳や教師として活躍し、明治31年・1898年71歳で亡くなった。

黒潮大蛇行で、ジョン万次郎と同じように鳥島に漂着した人はたくさんいる。中には12年鳥島で生活し、帰還した人もいるという（野村長平）。

まるでロビンソン・クルーソーのような人生だ。

神谷さんの研究によるとジョン万次郎が奇跡的に助けられたのは、次の3つのことが重なったかららしい。

- ①通常は北にのぼる黒潮がその年は大きく蛇行しており、鳥島に漂着できた。
- ②繁殖期でアホウドリが渡ってきており、生きるための食糧が確保できた。
- ③鯨を追って、アメリカの捕鯨船がその時期に鳥島近辺に来ており、亀の卵をとるためボートで上陸してきた。

漁師「万次郎」はそれまで学校に行ったことがなく、字も読めなかったが、年齢が14歳と漂流した5人の中で一番若く、知的好奇心が旺盛であった。そのためアメリカの捕鯨船に救助された直後から、すぐに鯨の解体や油の絞り出し方などの仕事を覚え、耳で聞いて言葉を覚えて話せるようになった。アメリカの学校でも、英語・数学・測量・航海術・造船技術などを精力的に勉強した。知的好奇心が旺盛なことが、人生を変えたのだ。

10月6日（金）その78 オリオン座周辺のあれこれ

私はあまり星座には詳しくなく、オリオン座とサソリ座、カシオペア座くらいしかわからない。オリオン座やサソリ座ははわかりやすく、冬と夏を代表する星座なので大好きです。

いつも朝5時に新聞を取るため庭に出るが、必ず空を見上げます。今はオリオン座が南中しています（南の真上に来ている）。しばしの間、星を見上げて、あれこれ考えます。オリオン座周辺の星の位置を示す手書きの星座盤を配布します。（ネットでご覧の皆さんは、次のページを見てください。）

オリオン座の四角形の左上と右下の星は一等星で、ベテルギウスとリゲルという星です。四角形の真ん中に「三つ星」がありますね。

その三つ星の真ん中の星の下に「ぼわん」としたのが見えますが、見たことありますか？「オリオン大星雲」と言います。肉眼でも見える有名な星雲です。ハッブル宇宙望遠鏡などで見るとこのように見えます（写真を提示する）。このオリオン大星雲を望遠鏡で初めて見たのが、木星の4つの衛星や、土星の輪っかを見つけて「土星には耳がある」と表現したガリレオ・ガリレイです。ガリレオはオリオン大星雲の中に肉眼では見えない大きな4つの星を見つけました。今ではその4つの星は互いに近い距離にある若い太陽（恒星）であることがわかり、オリオン大星雲の中に300以上の若い星が発見されているそうです（星が密集していて「散開星団」と呼ばれている）。

先ほど配布した星座盤を見てください。オリオン座の左上の「ベテルギウス」を含んで、オリオン座の左側に明るい3つの一等星があり、冬の大三角形と呼ばれています。ベテルギウスの下にあるのが全天で一番明るい「シリウス」、左上にあるのが「プロキオン」という星です。とっても明るいので、すぐにわかります。また三つ星の右延長線上に赤っぽい一等星があって「アルデバラン」と言います。その延長線上に「すばる」があります。

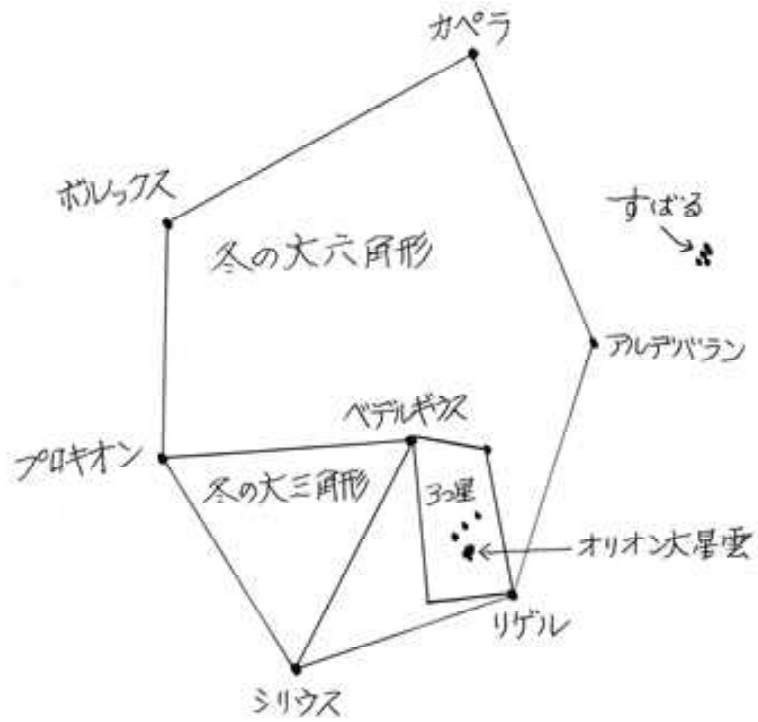
ちなみに「すばる」は、沖縄の方言で群星（むりぶし、むるぶし）と言います。2年くらい前にできた「県立離島児童生徒支援センター」の愛称を「群星寮（むるぶしりょう）」と言います。

「すばる」は日本語です。だからひらがなで書きます。「ひとつにまとまる」という意味の古い言葉からきているそうです。漢字の「昴」は、中国語に由来するようです。すばるは六連星（むつらぼし）ともいいます。肉眼で6つの星が集まって見えるからだそうです。西洋では、「プレアデス星団」と言いますね。すばるも若い太陽（恒星）が密集した「散開星団」です。

そう言えば沖縄の「オリオンビール」は、昭和32年に創立されて60年近く「県産品の代表」みたいになっていますね。オリオンビールのオリオンは、オリオン座からとったもので、ロゴの「三つ星」は、オリオン座の三つ星です。「♪三つ星片手に高々と、ビールに託した沖縄の♪♪……」BIGINの「オジー自慢のオリオンビール」は、CMソングですが、県民の愛唱歌にもなっていて、中学生も歌っています。（笑）

朝5時、新聞を取りに行くしばしの間。空を見上げて心が宇宙空間を飛んでいます。皆さんは、このような心が癒やされる「ゆとりの時間」を何か持っていますか？人間は緊張ばかりはしてられませんから、リラックスできる時間が必要です。一日の中にわずかでもそのような時間を作りましょう。

1 オリオン座周辺の星座盤（自作）



2 オリオン大星雲の望遠鏡写真（ネット画像）

